

9-1 トイレ(洗面台)^{せんめんだい}

(1) 手順^{てしゅん}

- 手順①：資機材準備^{てしゅん しきざいじゅんび}
- 手順②：鏡の清掃^{てしゅん かがみ せいそう}
- 手順③：金属部分・その他の部分の清掃^{てしゅん きんぞくぶぶん たのぶぶん せいそう}
- 手順④：点検^{てしゅん てんけん}
- 手順⑤：報告^{てしゅん ほうこく}



トイレ清掃の導入となる作業です。
手袋での作業に慣れましょう。

(2) 洗面台清掃での約束^{せんめんだいせいそう やくそく}

- 約束①：拭いた後は触らない。^{やくそく ぶいたあとはさわ}
- 約束②：ライトクリーニングたわしの面に注意する。^{やくそく ライトクリーニングたわしのめん ちゅうい}

(3) 用意するもの^{ようい}



システムバケツ 1つ



青いゴム手袋 1双



白タオル 2枚



ライトクリーニングたわし 1つ



中性洗剤 1本



マイクロ 1枚



作業表示板 1枚

トイレ清掃では衛生面に気を付けることが大切です。便器清掃では必ずゴム手袋を着用しますが、洗面台でも洗剤を使用するので、ゴム手袋を着用するようにしましょう。このとき、便器用の手袋とは分ける必要があるので、洗面台清掃では青色系の手袋をするようにします。

トイレ清掃全体を行う場合、一つのシステムバケツに便器用の資機材と洗面台用の資機材を一緒に入れて持ち運ぶこととなりますが、間仕切りがついているので、便器用の資機材と洗面台用の資機材は分けて入れるようにしましょう。

お客様に注意を促すために、必ず作業表示板をトイレの入口に立てましょう。

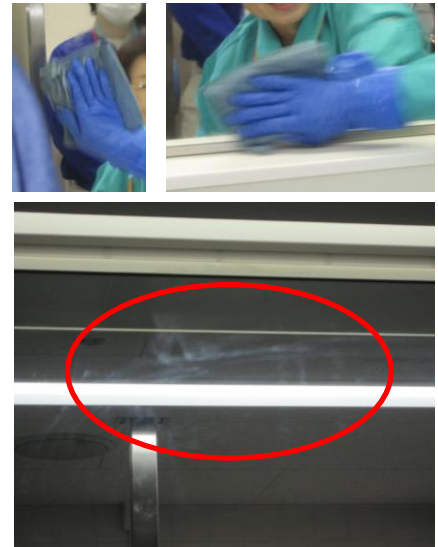
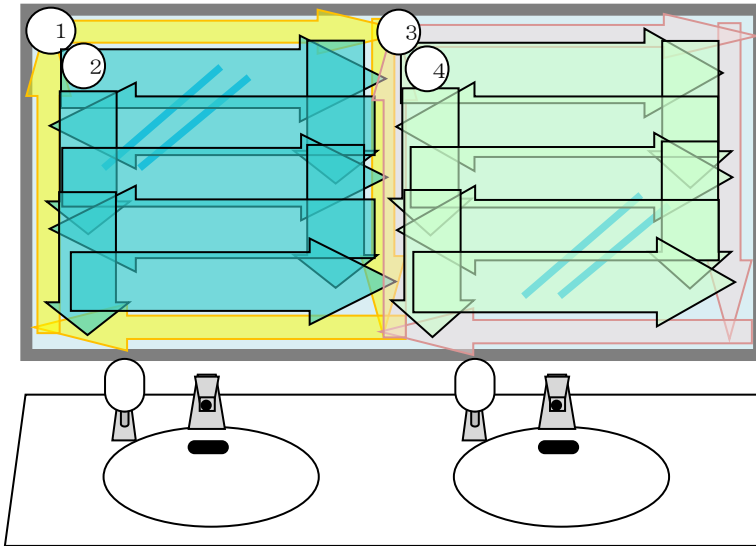
さぎょう なが
(4) 作業の流れ

手順①：資機材準備

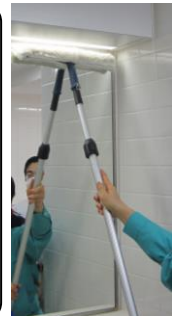


システムバケツに必要な資機材を使いやすいように入れます。ゴム手袋は、汚水が手袋を伝って袖口から入ってこないように、少し折り返して使用します。

手順②：鏡の清掃

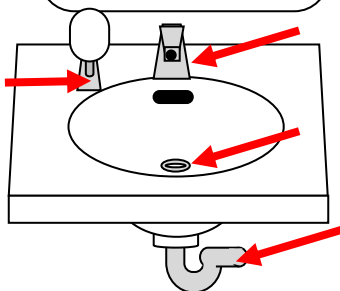


初めにマイクロクロスをゆすぎ、固く絞ります。四つ折りにし、バラバラの方を親指ではさんで持ち、テーブル拭きをするときと同じ拭き方で鏡を拭いていきます。鏡の下の方で拭きにくい部分は、手を横に向けるようにしてすみずみまでしっかり拭くようにしましょう。鏡の上部は手が届かなければ拭かなくても良いですが、ハンドルを付けて拭く方法もあります。拭き終わったら角度を変えて見て、汚れが残っていないか点検しましょう。



手順③：金属部分・その他の部分の清掃

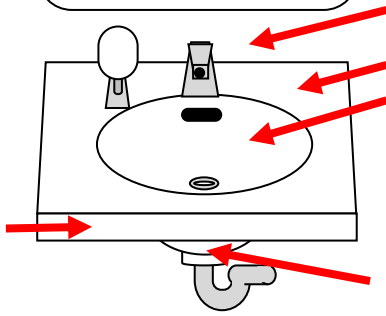
金属部分の清掃



次に金属の部分の汚れをライトクリーニングたわしの黄色いスポンジ面を使って落としていきます。ライトクリーニングたわしを水で湿らせ、中性洗剤を付けます。スプレーが飛び散らないように、洗面台の中で、スプレーをライトクリーニングたわしに近付けて噴射します。金属の部分は洗面台の下にもありますので忘れずに清掃しましょう。



その他の部分の清掃



次にシンクの部分や周辺の汚れをライトクリーニングたわしの白パット面を使って落としていきます。白パット面は目が粗く、金属の部分をこすってしまうと傷が付いてしまいますので注意しましょう。



ライトクリーニングたわしでこすった後、シンクに栓をして、トラップから水が流れ出すまで水をためます。トラップに水が入っていないと臭いが上がってくるがあるので、定期的に水を入れるようにしましょう。



トラップに水を入れた後は、白タオルをゆすいで水を流し、固く絞ってまず金属の部分を拭き、その後、シンクやシンクの周辺部分、シンクの下を拭き取ります。最後に乾いた白タオルで、同じ手順で仕上げ拭きを行います。

手順④：点検

最後に点検をします。床やシンクの外に水滴や汚れが残っていないか確認し、残っていたら拭き取りましょう。

手順⑤：報告

全ての工程が終了したら、システムバケツに使用したタオルや洗剤、ライトクリーニングたわしをきれいにしまい、手袋を外し、資機材置き場に戻し、最後に作業表示板を片付けます。姿勢を正し、はっきりした声で報告をしましょう。

ゴム手袋の手入れ



使用した手袋は表面をきれいに洗ったら、裏返して裏側もきれいに洗います。裏返しのまま中指を上にして干しておきましょう。